

世界文学全集 2

ゲーテ
ファウスト
若いウェルテルの悩み

高橋健二 手塚富雄 訳

河出書房

世界文学全集 2 ゲーテ

© 1969

編集委員

阿部知二 伊藤 整
桑原武夫 手塚富雄
中島健蔵

昭和35年7月28日 初版発行

昭和44年11月8日 37版発行

定価 430円

訳者 高橋健二
手塚富雄
発行者 中島隆之
印刷者 多田基
装幀 原弘

印刷・多田印刷株式会社
製本・加藤製本株式会社

発行所 東京都千代田区 株式会社 河出書房新社
神田小川町三の六

電話東京(292)大代表 3711
振替口座 東京 10802

落丁本・乱丁本はお取替いたします

0397—310102—0961

目次

ファウスト 悲劇

ささげることば……………三

劇場での前戯……………四

天上の序曲……………一〇

悲劇の第一部……………一五

悲劇の第二部……………一七

若いウエルテルの悩み

第一部……………二六

第二部……………四六

解	年	訳
説	譜	注
.....
(手塚富雄)	(高橋健二)
五三	五三	五五

フ
ア
ウ
ス
ト

悲
劇

高
橋
健
二
訳

主要人物

第一部

ファウスト 十六世紀の伝説的な魔術師、学者、飽くことを知らぬ人生探求者。第一部では、知に絶望し、愛に生きがいを求める。

メフィストーフエレス ファウスト伝説の悪魔。ファウストの道づれとなり、その霊を奪おうとする。

ヴァーグナー ファウストの学僕で実利主義者。

マルガレーテまたはグレーチエン 純真な、かれんな小市民の娘。

マルテ グレーチエンの隣の女、やもめ。

ヴァレンチン グレーチエンの兄、兵士。

第二部

ファウスト 第二部では、美と行為の段階を体験し、昇天する。

メフィスト 大きい世界でファウストの道づれをつとめ、その霊を奪おうとする。中ほどで醜い魔女フォルキニアスとなる。

皇帝 名まえがなく、一般普通の皇帝。好人物で享乐的。

ヴァーグナー 第一部の学僕が大学者になっている。

ヘレナ ギリシャの理想的な美人、ファウストと結婚する。

ささげることば

おん身らは再び近づく、おぼろに揺らぐ姿よ、
そのかみ私のさだかならぬ目につとに現われた姿よ。

このたびこそはおん身らを、しかと捕える試みをしよう。

私の心はおかの幻想をなつかしく感じるのか。

おん身らは迫り寄る！ では、よし、思うままにふるませ、

もやと霧の中から私の身のまわりに立ちのぼって。

おん身らの群れをめぐり漂いわきたつ不思議な息吹きに
私の胸は揺すぶられ、若やぐのをおぼえる。

おん身らは楽しかった日のもろもろのおもかげを伴って
くる。

それにつれて、数々のなつかしい幻が浮かんでくる。
なかば忘れられた古い物語のように

初めての恋も友情もともによみがえってくる。

苦しみは新たに、嘆きは

人生の奥しれぬ迷路をくりかえしさまよい、

私に先だってみまかった良き人たちの名を呼ぶ。
あの人たちは幸福に欺かれ、美しい時を失ったのだ
た。

私が最初の歌を聞かせた人々は、

次ぎの歌をもはや聞かない。

親しかったつどいは四散した。

最初に聞いた反響も、ああ、消えてしまった！

私の嘆きは、なじみのない人々の耳にひびく。

その賛辞はかえって私の心をおびえさす。

かつて私の歌を喜んだ人々は

まだ生きているとしても、方々に散りさすらっている。

あの静かなおごそかな霊の国へのあこがれは、
久しく忘れられていたが、今また私をとらえる。

私のささやく歌は、風のかなでる立て琴のごとく、
定かならぬ音をなして漂う。

私はおののきに捕えられ、涙は涙につき、

きびしい心も、なごみ、やわらぐのをおぼえる——

私の持つものは、遠くにあるか見え、

消え去ったものが私にとって現実とはなる。

劇場での前戯

座主、座付き詩人、道化役。

座主　ご両所は、これまでいくどとなく、
難波にあつた時、私を助けてくれた。

こんどの企てがドイツ国で

どれほど成功するか、見こみを言ってもらいたい。

私は多ぜいの人に喜ばれたいと切望している、

ことに、見物は、自分も楽しみ、人も楽しませうとい

うのだから。

もう、柱も立ち、舞台もできて、

みんなお祭りを待ちうけている。

見物はもう、まゆをつりあげて、腰をすえ、

目を見はるようなものを見たがっている。

私は、大衆の心を満足さす法は心得ているが、

こんどぐらい困ったことは、ついぞない。

見物は最上のものに慣れているわけではないが、

恐ろしくたくさん読んでいる。

何から何まで新鮮で、意味もあって、

気にも入る、というにはどうしたら、いいだろう？

もちろん、大入りの景気を見たいからだ。

人波が小屋に押しかけ、

猛烈なひしめき合いを繰り返し、

狭い恵みの門を無理やり通ろうとし、

昼ひなか、四時まえだというのに、もう

腕ずくで切符売り場にこぎつけて、

まるで飢きんの時にパン屋の戸ぐちでパンを争うよう

に、

一枚の切符を手に入れるのに、いのちがけだ。

こうした奇跡を種々雑多な人に起こさせるのは、

詩人だけだ。ねえ、きょうは一つその手を頼む！

詩人　ああ、どうかあの種々雑多な見物のことは言わな

いでください。

あれを見ると、詩人の霊は逃げてしまいます。

私どもを無理やりうずのなかに巻きこもうとする、

人の波を、見えないように隠してください。

そのかわり、詩人に清い喜びの咲く

天上の静かなしんみりした所につれて行ってください

。

そこでだけ愛と友情が私たちの心の祝福を

神々のような手で造り育ててくれます。

ああ、あの胸の奥からわいてくるもの、

口びるがおずおずと片ことのように言ってみるもの、それはある時は、できそこね、ある時は、うまくゆく。

そういうものをあらゆる瞬間の暴力が飲みこんでしまう。

いく年もみ抜いて、初めて

完成された姿で現われることも、しばしばです。

びかびか光っているものは一時のために生まれたものの、

ほんとうのものは、滅びることなく後世に伝わります。

道化役 後世なんてことだけは聞きたくありません！

私が後世のことなぞかまっていたら、

だれがいまの世の人を笑わせますか。

みんな笑いたがっているんですし、笑わせなけりやならないんです。

あっぱれな若手がひとりいりゃ、

それだけでもう口をききますよ。

調子よくやることを心得ているものは、

見物のむら氣に腹を立てたりせず、

大入りを望んでいます、

見物は多いほうが確実に感動させられるんですから、ですから、あなたもあっぱれ大家ぶりを示して、空想にありつたけの合唱を添えて聞かせるんですね、理性や知性や感情や熱情などをね。

ただし、おどけを聞かせるのも忘れちゃいけません。座主 とにかく、できごとを多くすることだ。

みんな見にくるのだ。何より見たがっているのだ。見物がおどろいて口をあけて見ているように、目のまえでたんまり筋をひろげてやれば、

おお向こうにうけることは必定、

あなたはたちまち人気作者だ。

多ぜいをこなすにはかきでゆくにきぎる。

そうすりゃ、結局でんで何かしらさがし出す。

たくさん出してやれば、何かしら見つける人がふえる——

そしてめいめい満足して小屋を出て行く。

一つの脚本を出すんでも、頭から砕いて出してもらいたい！

たい！

そういうごった煮なら、あなたのお手のものはずだ。

おせん立ても手がるに、くふうも手がるにね。

まとまったものを出したところで、何になる？

どうせ見物はそれをむしり取るんだから。

詩人 あなた方はごぞんじない、そういう細工がどんな

にまづいか、

真の芸術家にどんなにふさわしくないか！

いかがわしい先生がたの、場あたり仕事が

あなた方の金科玉条になつてゐるようですね。

座主 そんな非難で私は気を悪くはしない。

うまく当てようとする人は

一ばんいい道具に目をつけなくちゃ。

あなたは軟い木を割るんだってことを、考えてほし

よ。

そしてだれを相手に書くのか、よつく見きわめてほし

う。

退屈してやってくるものもあれば、

山もりのごちそうに満腹してくるものもある。

それから一ばんの困りものは、

新聞雑誌を読みあきて来るやつすくなくないこと

だ。

仮装舞踏会へでも行くように、うわのそらで駆けつけ

る。

もの見だかい気もちばかりで、足もはずむのだ。

女客ときたひには、顔とつくりを見せにきて、

給金なしで、いっしょに芝居をしてくれるようなもの

だ。

あなたは詩人の高ねで何を夢みているんです？

それじゃ、小屋が満員でも、なんでうれいだろう？

ひいきのお客をそばでよくみなさい。

半分は冷淡で、半分は野蠻だ。

芝居がはねたら、カルタ遊びをしようというもの、

娼婦に抱かれて、すさまじい一夜を過ごそうというも

の、

こうした連中を相手に、やさしい詩の女神を、

ひどく悩ますというのは、ばか正直じゃないか。

私の意見じゃ、いやが上にもたつぶりやることだ。

そうすりゃ、まとをはずすことはなう。

どうせ人間を満足させることは困難だから、――

ただ煙にまいてやるようにすることさ。

おや、どうなさった？ うっとりしたんですか、苦し

いんですか。

詩人 それなら、よそに行つて、他の使用人をさがしな

さい！

詩人ともあろうものが、最高の権利を、

自然から与えられた人権を、

あなたのために無法に軽々しく捨てていいでしょう
か!

いったい、詩人は何によって万人の胸を動かすので
す?

何によって地水火風あらゆる力に勝てるのです!

それは、胸から迫り出て、全世界を

その胸に収め返す調和ではないでしょうか。

自然が、はてしもなく長い糸を

無関心によじりながら、紡に巻きつけている時、

万物の雑然たる群れが、

不快に入り乱れてひびいている時、

この流れて変わらぬ単調な列に区ぎりをつけ、

リズムをもって動くように活気づけるのはだれで
す

か。

個々のものを全体の貴い働きの中に呼び入れ、

みごとに調和に合わせるのはだれですか。

だれが、あらしを情熱にたぎらせ、

夕ばえを嚴肅な心をもって燃えさせますか。

美しい春の花をあげて、

恋人の通る道にまき散らすのは、だれですか。

だれが、見ばえのしない緑の葉を編んで、

あらゆる手がらをたええる誉れの花輪にしますか。

オリンピックを安らかにし、神々をつどわせるのは、だれ
ですか。

それは、詩人に現われた人間の力です。

道化役 それなら、その美しい力を使って、

詩人稼業をやりなさい、

色ごとでもやるように。

ふとしたことで近づき、心を動かして、足をとめ、

しだいしだいにからんでくる。

うれしさがつのと、邪魔がはいる。

夢中になつていると、苦しみが襲ってくる。

それで、いつのまにか、小説になつていく。

芝居もそんなふうになりましょう!

充実した人間生活に手をつっこむんですな!

だれでもやつてることだが、心得てる人は少ない。

そいつをつかまえれば、おもしろくなるんです。

色とりどりの中をあんまりはつきりさせず

まちがいだらけの中に、一点真理の光をとます。

そうすれば、最上の飲みものがかもされ、

それが世界じゅうの人を元気づけ、引き立てる。

そして、えりぬきの若い人たちが

あなたの芝居の前に集まり、啓示に耳を傾ける。

また、心やさしい人がみな、あなたの作品から

148

149

150

160

165

170

175

メランコリックな養分を吸います。

そうして、いろいろな気もちをかき立てられ、

みんなが自分の胸に抱いているものを見つめます。

若い人々はまだすぐに泣いたり笑ったりします。 180

はずんだことをまだ貴び、外見を喜びます。

できあがった人間は、満足のさせようがない。

できかかっている人間は、いつでもありがたがりま

す。

詩人 それじゃ、私にもまた返してください、

私がまだできかかっていた時代を。

185

もりあがる歌の泉が

たえず新たに生まれた時代を。

霧が世界を包み

つぼみがまだ奇跡を約束した時代を。

谷々を豊かに咲き満たした

190

無数の花を、私が折った時代を。

そのころ私は何も持たなかったが、満ち足りていた、

真理を求める念と幻を喜ぶ心で。

あのころのままに、あの衝動を、

深い、苦痛に満ちた幸福を、

195

憎みの力を、愛の強さを、

私の青春を、返してください！

道化役 いや、あなたが青春を必要となさるのは、せい

ぜら

戦闘で敵が押し寄せてくる時とか、

この上なくかわいいう娘がはげしく

あなたの首に抱きつく時とか、

競走の月桂冠がはるかに、

達しがたい決勝点からさし招いている時とか、

はげしくうず巻くダンスのあとで

いく夜かうたげに飲みあかす時とか、です。

205

それに引きかえ、手なれた弦の調べに、

大胆に優美に手をくだし、

みずから定めた大づめに向かって、

みやびな迷いを経て、たどって行く、

それこそ、老先生、あなた方の務めです。

210

それでも私たちの先生がたを敬う心は変わりません。

世間で言うように、老いては子どもにも返るのではな

く、

老いても私たちはほんとの子どもなんです。

座主 ことばのやりとりはもうたくさんだ。

さら加減に実行を見せてもらいたい！

215

紋きり形のお世辞を言ってるひまに、

何か役に立つものができそうだ。

気分がどうのこうのと言って、なんになりませぬね？
ぐずぐずしている人間に気分なんかわきゃしません。
いったん詩人と名のつたからには、

220

造化の世界をくまなくまたにかけ、
慎重な早さで通りぬけてください、
天国からこの世を通って地獄へと。

220

詩に号令をかけるがよい。
私たちに入り用なものはごんじのはず、
望むものは、つよい酒だ。

さあ、さっそく醸造にかかってください。
きょうできないことは、あすもできない。

225

一日もむだにはすごせない。

決心して、敢然と時を逸せず、

できそうなことの前髪を引つつかむんです。

決心したからには離すことはしない。

そこでいやおうなしに仕事ははかどる。

230

ごんじのとおり、わがドイツの舞台では、
めいめい好きなことをやってみている。

だからこんどだって遠景にしろ、
からくりにしろ、遠慮はいらない。

日の光でも月の光でも使ってください。

235

星なんか使い放題でよろしい。
水でも火でも岩かべでも、

けものでも鳥でも事かかせはしない。

そこで、狭い板小屋ながら、

天上の序曲

主、天使の群れ、のちにメフィストフェレス、
三人の首天使、進み出る。

ラファエル 太陽は、昔ながらの調べで、
はらからの星の群れと歌いきそっている。
その定めの旅を

いならずまの歩みをもって全うする。

天使はひとりとしてそのことわりを知らぬが、
それを見ただけで、強みをおぼえる。

解しがたく高いわざは

その最初の日のごとく莊嚴である。

ガブリエル そして早く、解しがたく早く、

壮麗な地球は回転している。

天国の明るさと

ぞっとする深い暗やみとが交代する。

海は幅ひろい流れをなして

岩の深い底からわき立つ。

そして岩も海も引かれて行く、

永遠に早い天体の運行の中に。

ミヒヤエル そして海から陸へ、陸から海へ、

荒れ狂いつつ周囲に

この上なく深い作用の連鎖を作る。

時としてきらめく破壊が

雷鳴の行く手に炎をあげる——

しかし、主よ、おん身の使いたちは

おん身の明るい日の穩かな推移をあがめる。

三人いっしょに 天使はひとりとしてそのことわりを知

らぬが、

それを見ただけで強みをおぼえる。

おん身の高いわざはすべて

その最初の日のごとく莊嚴である。

メフィストフェレス これは、だんなさま、またおい

でになって、

私どもの世界がどういうぐあいかを、お尋ねくださ

る。

ふだん私どもをごひいきにしてくださいるので、

あなたの召使たちにまぎって、私もまかり出ました。

ごめんください、私には高尚な文句はできません、

居ならぶ連中にさげすまれるか知れませんが。

255

245

250

260

265

270

気だったところで、きつとあなたに笑われるまでです。

笑うことをお忘れになつていなければ。

太陽や世界のことには私はいっこう心得ません。

私は、人間がどんなに苦しんでいるかを見るだけです。 200

この世界の小さい神さまはいつも同じたちで、最初の日のように奇妙です。

あなたが人間に天の光の影をお与えにならなかつたら、

人間も少しはましな生活ができたでしょうに。

人間はそれを理性と呼んで、もっぱら 205

どの動物よりも動物らしくするために使っています。

だんなの前で恐縮ですが、私には人間が、

足の長いバッタのように思えるんです。

年じゅう飛んだり跳ねたりして、

すぐ草の中にもぐつて昔かわらぬ小歌を歌うバッタの 210

ようにね。

草の中に年じゅううねていればまだしもですが！

どんなごみの中にも鼻を突っこむんですからね。

主 わしに言うことはそれだけかい？

いつも苦情を訴えにだけ来るのかい？

地上ではいつになつてもおまえには何ひとつ気に入らないのか。 205

メフィスト まったく、だんな、いつものことながら、

あすこはほんとにひどいですよ。

苦しんで暮らしている人間を見ると、かわいそうになります。

私でも、あのみじめな連中をからかう気になりませぬ。

主 おまえはファウストを知っているか。

メフィスト あのドクトルで 210

すか。

主 わしの子分じゃ！

メフィスト まったく、あいつはあなたに妙な行きかた

で奉公しています。

あのおろかももの飲み食いするものは浮き世ばなれし 215

ています。

心をわきたたせて遠くのほうへこがれています。

自分の血まよいぶりも半分気づいています。

天上の一ばんうつくしい星をとろうかと思え

ば、

地上の一ばん高い楽しみをのこらず味わおうとする。

近いものも、遠いものも、一つとして、

あいつの深くわきたっている胸を満足させないんです
ね。

主 いまのところあいつの仕えかたはしどろもどろだ

が、

そのうち明澄の境にみちびいてやる。

植木屋でも、木が緑すれば、

310

花と実とが、くる年どしをかざるのを知るのだ。

メフィスト 何を賭けますか。あいつをそろそろと

私の道に引っぱりこむことをお許しくださるなら、

あいつに裏ぎりをさせてみせますよ！

主 あれが下界に生きているあいだは、

315

それをおまえにとめやしない。

人間というものは、努めているあいだは迷うものだ。

メフィスト そいつはありがたい。なぜって、私は死人

なんぞに

かかわり合うのは、もともときらいですからね。

一ばん好きなのは、ふっくらした、生きのいいほっぺ

たです。

320

亡者にゃ、るすを使います。

私の流儀は、ネズミを相手にするネコというところで

すから。

主 よろしい！ おまえにまかせよう！

あの霊をその本源から引きはなして、

つかまえることができたなら、おまえの好きな道へ

いっしょにつれておいてみい。

だがな、おまえがこう白状せずにいられなくなつた

ら、恐れるのだぞ。

よい人間は暗黒な衝動に駆られても、

正しい道を決して忘れはしないものだ、と。

メフィスト けっこうです！ なあに長いことじゃあり

ません。

330

私はこの賭けにちっとも心配していません。

もし私が目的を達したら、

胸いっぱい勝ちどきをあげるのを許してください。

あいつにごみ、しかも喜んで食わしてみせます。

私のおぼの、有名なヘビのように。

335

主 その時もあるままにやってよい。

わしはおまえの仲まをついぞ憎んだことはない。

否定するいっさいの霊の中で、

わしが一ばん荷やつかにしないのは、いたずら者

だ。

人間の活動はとかくゆるみがちだ。

340

人間はすぐ絶対的な休息をしたがる。